
毒のアルコバレーノに転生
きっこちゃん

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁々小説投稿サイト」で掲載中の小説を「暁々小説投稿サイト」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁々小説投稿サイト」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

毒のアルコバレーノに転生

【作者名】

きっこちゃん

【あらすじ】

前の作品が無断転移と言われたので消しましたすいませんでした。今度は言われないうようにしたいと思います。

空の天気ではないので注意してください

もう一個が消えてしまったのですいませんでした。

転生します

俺はある日死んだ

俺は白い空間で目が覚めた。

「知らない天井だ。」

「いやしってたら怖いよ。」

「寝るか」

「いや寝るなよ！」

「ん？なんだ、オッサンは？」

「ワシは神じゃ」

「（ー・ー）そうなんだ」

「信じてないじゃろ」

「当たり前だろ、ワシは神じゃと行きなり言われても、まあいいや
で何のよう？」

「いやー、実は・・・」貴方のミスで死んだんですね「あ、ああ
そうじゃ」

「まあいいや、で俺はどうなんの？」

「お主には転生してもらう。」

「分かりました。」

「どこにいくかどんな能力を貰うか決めてくれ。」

「わかった」

少年考え中

「よしきまった」

「良しいってくれ」

「リボーンに転生チートは――省略――で頼む」

「わかったぞ、よし送るぞ」

「Okじゃあ頼む」

「よし？じゃあな」

そうして俺は転生した。

チート一覧表

見た目

エースに白衣

能力

トライデント、モスキート

病原菌の数はシャマルノの100倍

毒のアルコバレーノ 能力 毒を自由自在に操る

アルコバレーノの弱点無し
アルコバレーノの能力
を使っても命が削られない

不老不死

強さは20年後の雲雀の20倍

体力は10日間ずっと戦える位

アルコバレーノの反応を隠せる袋

毒は効かない 病気にかからない

一世の時代に転生

ボンゴレの毒の守護者に

マーレリングとおしゃぶりを持ってる

ボンゴレリン

グは争奪戦で貰います

一番強い幻術が使える

転入

転生して何百年かたった

そして俺は並森中に転入していいいます。

「じゃあついてきてくれ」

「はい、分かりました。」

「————移動中————」

「じゃあ呼んだら入ってくれ」

「分かりました」

「今日は転校生がいる、入ってこい」

「はい！」

がら！

「安藤 彰伸ですよろしくお願いします」

「彰伸は沢田のとなりだ」

「よ、よろしく俺の事はツナって呼んで」

「よろしくツナ」

俺とツナは親友になった

ある日ツナが途中で早退したらしい。

俺は原作開始かーと思ってた。

次の日、俺はツナのに昨日大丈夫かと聞いてみることにした。

次の日

なんとツナが裸で笹川 京子に告白したと聞いたけど俺は1話めだ
なと思ってた。

少し時間をとばします

ある日

「イタリアに留学していた、転入生の獄寺 隼人君だ。」

俺はスモークン・ボムがきたなーと思っていた。

説明をされるとクラス中が騒めいた（主に女子）

「獄寺君の席はあそこの・・・獄寺君？」

そうしてたら獄寺はツナを射殺すような目付きで睨んでいた。

獄寺はそのままツナの席に向かって行き、ツナの机を蹴飛ばした後、
空いている席に腰を下ろした。

「おいツナ知り合いか？」

「おいツナ大丈夫か？」

と俺は聞いた

そしてツナは

「うん、大丈夫だよ」

そして俺は屋上で寝ていた

そして

ドドオオン！！

「……………始まったか」

突然響いた爆音にゆっくりと身を起こし、軽く伸びをする

俺が降りたところは

「復活！！！死ぬ気で消化活動！！！」

飛び降りると、丁度ツナが死ぬ気モードになったトコだった

うん：死ぬ気モード初めて見たけど：これギャグだね

感じ的には火事場の馬鹿力ってみたいけど：

そしてツナはダイナマイトを消していった

獄寺がミスってダイナマイトを落としたそうしたら

ツナがそれまでもすべて消した。

「御見逸れました！！あなたこそボスにふさわしい！！！」

「十代目！あなたについていきます！なんなりと申し付けて下さい！！！」

「あなたはオレの想像を超えていた！オレのために身を挺してくれ

「たあなたにオレの命を預けます！」

「そんなっ、困るって命とか…。ふ…普通にクラスメイトでいいんじゃない？」

「そーはいきません！」

ギンッ！獄寺は眼を光らせてツナを見つめる

するとツナが俺を見つけた

「！アキノブ！、いつからそこにいたの？」

「最初から」

「え？、本当なのー！！ てことは見たの？」

「うん、ばっちり」

「えー見たのーてことは知ってるの？」

「うん、ツナがボンゴレ十代目だってね」

「いつから、知ってたの？」

「少し前からね」

「十代目！こいつは誰ですか？」

「獄寺くん、友達のアキノブだよ」

「おいお前」

「リ、リボーン！」

リボーンに話しかけられた

「何だ、アルコバレーノのリボーン」

「！、なぜそれを知っている」

「おれだってアルコバレーノだからな」

といいながらおしゃぶりを見せた。

そしたらおしゃぶりが光った

「なに！何のアルコバレーノだ！」

「毒のアルコバレーノだ」

「何！毒だと！」

「どうしたの？リボーン？」

「初代の時代から生きてるといわれている、アルコバレーノだ」

「え？アキノブほんとなの？」

「あーそーいやージョット以外のボスがいやだったからなー」

「そんな理由なのか」

「ああ」

そういつて俺はおしゃぶりをしまった

「後でうちに来いよな」

「わかった」

そしてリボーンは帰っていった

「ありゃりゃ、サボっちゃってるよこいつら」

後ろから癩に触るトーンの声が響いてきた

「こりゃおしおきが必要だな」

「サボっていいのは3年からだぜ」

「何本、前歯折って欲しくない？」

ヒヤハハハ、と下卑た笑い声を上げているのは、馬鹿みたいなカッ
コをした不良達

「十代目、オレに任せて下さい」

「消してやらー…！」

「ちよっ！待ってよ獄寺君！ダイナマイトはだめだって！」

獄寺は不良に爆弾を投げたりしていた

一世時代

俺は放課後、ツナの家に向かった。

ピンポーン

「ハイ、どちら様？」

「ツナ君の友達の彰伸です」

「ハイどうぞーあがってー」

「失礼しまーす」

といいながら家に入った。

家に入った俺はツナの部屋に行って説明を始めた。

回想

転生して何年かたった。

俺は腹が減って道に倒れていたそうしたら。

「腹が減ってるのか？ならこれを食べばいい」

とって俺にパンをくれた。

俺はパンを一心不乱にパンを食べた。

後日

ボンゴレ本部

「約束道理来たぞー」
「では紹介する」

「嵐の守護者はGだ」
「よろしくG」
「ああ、よろしくアキノブ」

「雨の守護者は朝利 雨月だ」
「よろしく」
「よろしくでござる」

「霧の守護者のD・スピードだ」
「よろしく」
「ヌフフよろしくお願いします」

「雲の守護者のアラウディだ」
「よろしく」
「よろしく」

「雷の守護者のランポウ」
「よろしく」

「よ、よろしくだものね」

「晴れの守護者のナックルだ」

「よろしく」

「よろしくたのむぞ！」

二代目は何日か観察して俺はジョットが隠居するときについてくことにした。

それから何年かたってジョットが隠居したから俺はついていった。

「……と俺が行方をくらませた理由だ」

「ふーんそうだったのか」

「そうなんだ」

「あ！もうこんな時間だ、じゃあかえるよ」

「うん、じゃあねー」

そうして俺は帰った。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~5623

毒のアルコバレーノに転生

2013年11月18日 18時40分発行